

平成 26 年度継続課題に係る継続評価書(平成 24 年度までの採択課題向け)

研究機関 : (株)国際電気通信基礎技術研究所、NTT、島津製作所、積水ハウス、慶應大学

研究開発課題 : 脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発(高精度脳情報センシング技術・脳情報伝送技術、実時間脳情報抽出・解読技術及び 脳情報解読に基づく生活支援機器制御技術)

研究開発期間 : 平成 23 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 石井 信

■ 総合評価 : 適

(評価点 19 点 / 25 点中)

(総論)

個別の技術開発は順調に進捗しており、引き続き研究開発を推進することが適当である。

(コメント)

- 特に、データベースを効率的に作り、利用する技術開発は、次に繋がる重要な技術開発である。
- 最終年度に向けて、このプロジェクト全体として何が出来たのかを明確に示す必要がある。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

概ね、計画通りの成果が出てきている。

(コメント)

- 達成目標の客観化について、デコーディングにかかる時間の評価など、最終的な記録条件とは異なる条件の結果があり、単純に目標が達成できているとは言いにくい項目もある。
- 新しい学習アルゴリズムの開発やデータベース作りなどに進展が見られる。
- 一部の成果は非常に進歩的である。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

概ね、妥当である。

(コメント)

- 予算計画書に則り、効率的かつ適正な執行が行われている。
- アクチュエーター側に特化した開発と、ネットワーク BMI との関係に不明瞭な点がある。

(3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

順調に進んでおり、有効かつ効率的な計画であると言える。

(コメント)

- 脳情報に限らず生体信号ライフログの研究者等と情報交換してはどうか。
- 感情・情動コミュニケーション支援に関して、より具体的な記載が望まれる。
- 最終年度の目標達成に関し、全体を統括した達成イメージ作りが遅れているように思われる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

概ね妥当な予算計画である。

(コメント)

- アクチュエーター側に特化した開発よりも、安全制御技術との連携等の、よりネットワーク BMI に関連性の高い研究開発に注力した方が効果的ではないか。
- 最終目標達成までの過程で、個別の研究を統合しながら無駄を省く努力も必要と思われる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価5(評価点)

(総論)

適切な実施体制が生まれ、スケジュール等の管理体制にも優れている。

(コメント)

- 必要な技術開発のため、それぞれで日本トップクラスのグループを結集し、目標に向かって研究が進捗している。
- 最終年度に向けて、グループ間の連携がもう少し進むことが望ましいように思われる。